

STAGE+を楽しむ(72)(HP 収録)

—ワイセンベルクのチャイコフスキーのピアノ協奏曲—

1. 始めに

前報(71)に引き続き、STAGE+のワイセンベルクとカラヤンによるチャイコフスキーのピアノ協奏曲の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、ワイセンベルクとカラヤンによるチャイコフスキーのピアノ協奏曲の演奏を選びました。

ワイセンベルクとカラヤンによるチャイコフスキーのピアノ協奏曲の伝説的共演  
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

収録日: 1967年4月10日

2024年1月1日までの期間限定

20世紀を代表するピアニストであったアレクシス・ワイセンベルク。彼は一時自らの鍛錬のために活動を休止しましたが、ヘルベルト・フォン・カラヤンのバックアップのもと華々しく活動を再開しました。以後二人は数多くの共演を重ね、それらはいずれも名演となっています。本映像に収録されたチャイコフスキーのピアノ協奏曲第1番はその中でも特に優れたものの一つで、ワイセンベルクの華麗なピアニズムをカラヤンの指揮するベルリン・フィルハーモニー管弦楽団がさらに輝かせています。カメラワークにこだわった映像美にも注目です。

ソリスト:

Alexis Weissenberg (ピアノ)

演奏:

ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

指揮:

ヘルベルト・フォン・カラヤン

指揮:

曲目

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー ピアノ協奏曲第1番 op. 23

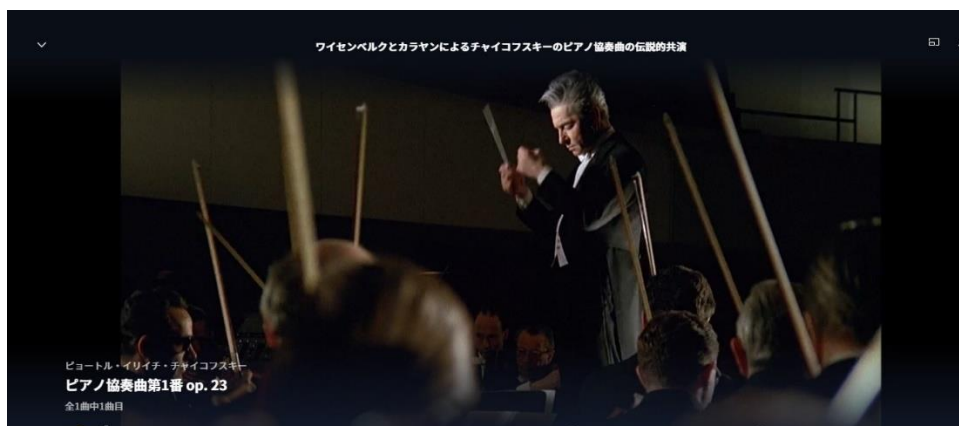


### 3. 試聴の経過

第一楽章から、いきなりスケールの大きいワイゼンベルグのピアノリズムが爆発します。第二楽章は静かな弦のピチカートと木管の調べによって、ワイゼンベルグのピアノは抒情的な旋律を奏でます。第三楽章は、一転してワイゼンベルグのピアノが疾走します。

カラヤンとワイゼンベルグは、一度も目を合わせるようなこともなく、自らの音楽に没頭しているかのようですが、それでも破綻なく、壮大なチャイコフスキーを表現している様は、巨匠同士の演奏はこういうものかと認識させられました。

1967年の収録で、最新の収録には及びませんが、壮大なチャイコフスキーを認識するに十分な音質でした。





#### 4. まとめ

以上の STAGE+配信は、追加の LAN iSilencer の効果も加わって、ワイゼンベルグとカラヤンのスケールの大きい演奏を堪能できました。

以上